

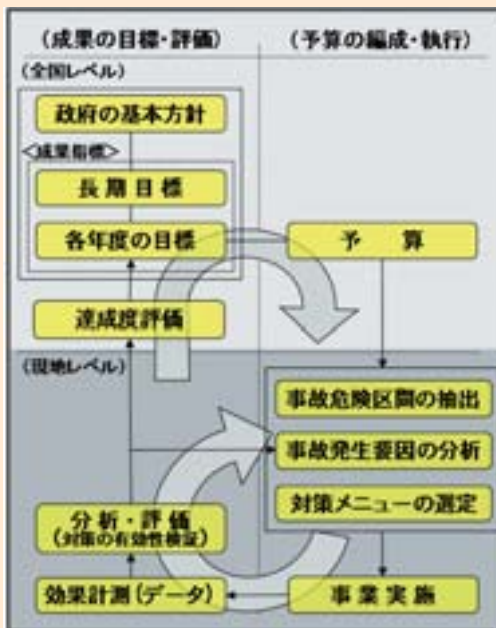
## 幹線道路における交通安全対策について

～「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）」の推進とロードキル対策について～

### 「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）」の推進

幹線道路における交通安全に資する道路整備事業については、交通事故対策への投資効率を最大限高めるため、平成22年度より「成果を上げるマネジメント」を導入し、選択と集中、市民参加・市民との協働により重点的・集中的に交通事故の撲滅を図る「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）」に取り組んでいる。

#### 事故ゼロプランのマネジメントサイクル



#### 事故危険区間リストの作成状況（平成23年4月時点）

事故データに基づく選定区間数	市民等からの指摘に基づく選定区間数	選定区間数合計
10,461区間	3,842区間	14,303区間

※両方に該当する区間は事故データに基づく区間に集計

#### 地域住民、関係機関等による現地点検、意見交換



### ロードキル対策について

動物の生息地や、生息地間の移動ルートに道路が整備された場合には、そこに生息していた動物の多くは、道路整備後も、従来通りそこを移動し、車にはねられるロードキルが発生する。

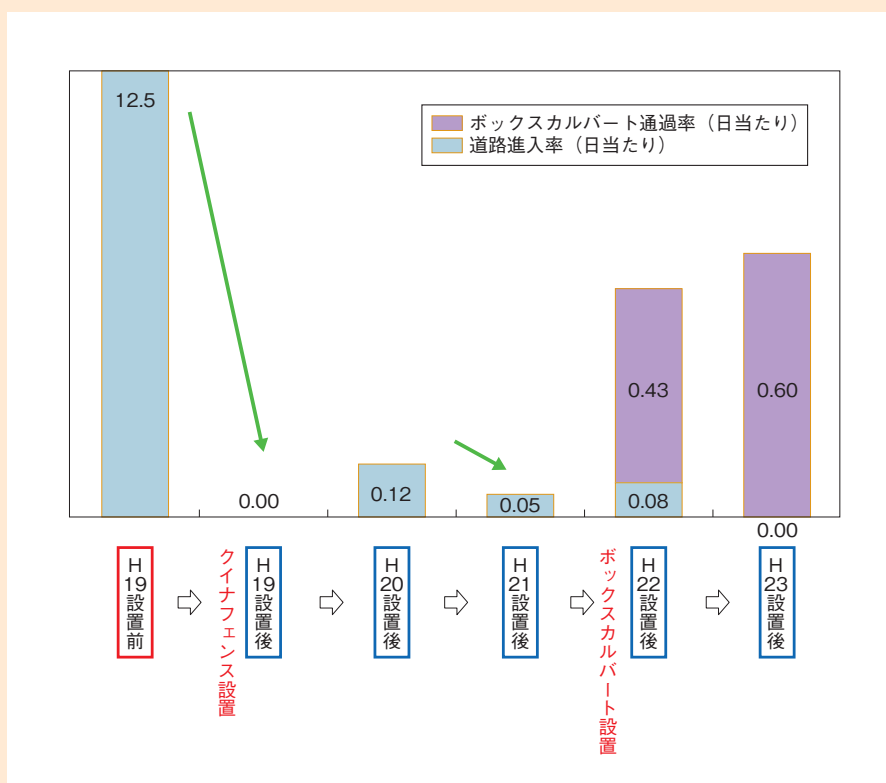
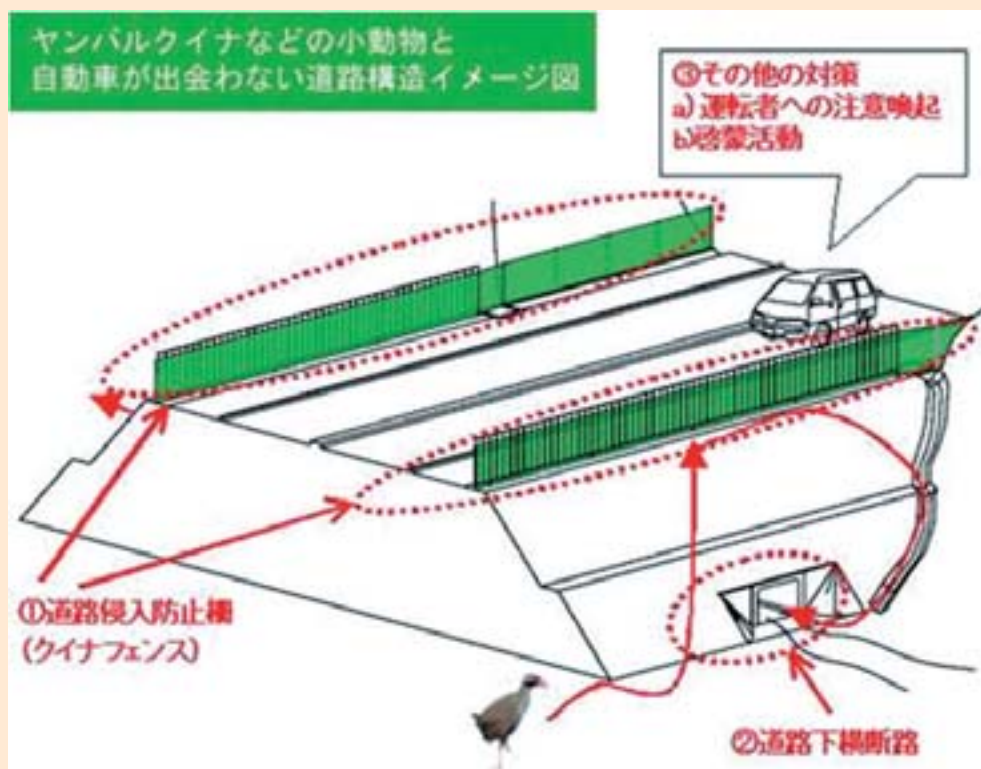
このロードキルの発生は、沖縄本島北部におけるヤンバルクイナなど、生息域や生息数が限られている場合には、種の存続にも大きな影響を与えることが心配されている。

またロードキルは、はねられる動物だけでなく、それをはねた車や、それを避けようとした車に対しても大きな影響を与え、特にエゾシカなどの大型哺乳類の場合には、人身事故につながることも報告されている。

そのため、道路を横断しようとする動物が道路に侵入しないように、防止柵を巡らせたり、道路による分断を回避するために、道路の下に動物横断用のボックスカルバートを設けたり、道路の上に動物横断橋を設けたりする対応が図られている。また、それでも道路に侵入してしまった動物がいる場合にも、容易に外側に逃げられるような一方通行のワンウェイゲートなどを設けるなどの対応が図られている。

これらの施設の整備により、沖縄県の国道58号の奥から辺戸の2.7km区間では、道路に侵入するヤンバルクイナは激減し、横断ボックスカルバートの利用数が増加しているなどの結果が示されている。





※調査期間中、ビデオカメラを設置

道路進入個体率及びボックスカルバート通過率 (3.8kP 地点)